

中学校 A 授業における言語活動の充実のための工夫

大林 大介 (市川・浦安) 関川 昭子 (千葉) 宮田 典啓 (船橋)
 松原 良太 (松戸) 宮川 尚久 (習志野) 平澤 一浩 (八千代)

1. はじめに

新しい学習指導要領では、生きる力をはぐくむことを目指し、基礎的・基本的な知識及び技能を習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等をはぐくむとともに、主体的に学習に取り組む態度を養うために、言語活動を充実することとしている。

本グループでは、学習カードの工夫や授業時間内の時間配分の工夫により、生徒同士がアドバイスをし合うような環境を作ることで、生徒がより主体的に活動し、結果的にスキルアップにつながるのではないかという仮説をたてた。

実際にいくつかの中学校で、類似した学習カード（アドバイスカード）を授業の中で活用し、生徒のスキルアップにつながるかを試みてみた。以下には、実践方法やその時の様子、生徒の変容からその成果と今後の課題をまとめることとする。

2. 実践

(1) 学習カード（アドバイスカード）の活用

アドバイスを書き込む項目を作り、授業中にアドバイスした生徒のカードに記入するという手法をとって、言語活動の活性化を促した。

(2) 活用の手順

生徒がそれぞれで練習をする時間帯にアドバイスカードを活用する。アドバイスをした時、アドバイスした生徒がアドバイスを受けた生徒のカードに記入する。

(3) 実際のカード

グループ活動の中で、教え合った内容(アドバイス)を記入し、学んだことを整理しよう!

<記入例>

月/日	本時の目標	仲間からもらったアドバイス	技能ポイントの分析	印
10/1	サービスを確実に入れよう	・カットサービスはイースタングリップで打ったほうがよい。(A君) ・プッシュサービスはラケットの中心でしっかりとボールをとらえる。(B君)	カットサービス ・上から下にラケットを振って打つ ・ボールの下面をカットする プッシュサービス ・目線の高さで打点をとる	

今日練習した技を書く。

グループ練習で教え合った内容を書く。

模範や資料、アドバイスを参考に技能を分析する。

<記録>

月/日	本時の目標	仲間からもらったアドバイス	技能ポイントの分析	印
10/10	ストロークを相手コートに確実に入れよう	・手を後ろに引いてから、ほじよて振る。	・ラケットの位置を高くする。 ・水平にスイングする。 ・肩の高さあたりでボールをとらえる。 ・ボールを押し出す感じで。	
10/12	各種サービスを確実に入れよう	・手首のスナップで力強くさせる。	・アングラーサービスでは、ボールをラケットで押し出し、インパクト。 ・カットサービスでは、イースタングリップで、手首のスナップで打つ。	
10/15	・ボレーの打ち方を身につけよう ・審判の仕方を身につけよう	・ボレーで振り切らず、固定する。	・フォアハンドボレーでは、大きく振らず、インパクトでラケット面を止める。 ・バックハンドボレーでは、小さくバックスイングで、インパクト。	

3. 結果

〈メリット〉

生徒同士のアドバイスが活性化し、十分な言語活動がなされた。自分たちで助言しあう雰囲気を作り出すことができた。生徒のスキルアップにつながったかどうかは、まだ比較検討が必要だが、なにより生徒たちが楽しそうに活動している場面が増えた。



〈デメリット〉

アドバイスを書き込む時間が増えたことで、運動量が減った。

4. 考察、今後の課題

上述のデメリットに対する解決策を検討した結果、3点の解決策が挙げられた。

(1) 学習カードの項目の変更

「アドバイス」→「Best Advice」

(2) 学習カードの記入者の変更

「アドバイスをした人」→「アドバイスをされた人」

(3) 学習カードの記入時間の変更

「アドバイスしたとき（随時）」→「授業の終わり」

以上の変更により、生徒はアドバイスを受けたら誰にどんなアドバイスを受けたかを覚えておく。授業後「Best Advice」欄に、その授業の中で一番ためになったアドバイスとアドバイスをされた人の名前を記入する。

解決策による予想される効果

- ① 「Best Advice」に選ばれるために、アドバイスが積極的に行われる。
- ② 「Best Advice」を記入するときに振り返りができる。
- ③ 授業中は記入しないので時間をとられることなく、運動量の確保ができる。

生徒の心理を考え、アドバイスしたくなる環境作りをすることが大切である。また、アドバイスをするにも、見るべき視点や、どんなことをアドバイスすればよいのかがわからない状態では積極的にアドバイスができる環境であるとは言えない。教員側の支援として、事前にその技能のポイントを十分に解説し、アドバイスができるよう生徒に理解させる必要がある。

今回は、実際にアドバイスカードを活用したことで技能のレベルアップにつながったかどうかは、はっきりかねるところであるが、生徒同士の言語活動が授業の中でより主体的に行われるようになったことは事実であるところから、アドバイスカードの活用には効果があったと考える。